編集後記

暑くなってきました。沖縄では梅雨の地雨による土砂災害、本土でも大雨、そして猛暑になりそうです。クーラーの効いた部屋の中で仕事をしていると、季節の移ろいを感じることが出来ません。そんな私にとって楽しみは学会出張です。本土では春はさくら、秋はもみじと四季を感じ取れます。7月に乳癌学会に行って来ました。金沢です。自分の発表はうっちゃんなげて、古都の初夏あらず食を楽しんで来ました。あるお寿司屋さんに入り、大将の職人芸に感動しました。一枚のイカを二枚におろし、さらにもうひと包丁。鮮やかなメスさばきでイカの三枚おろしの出来上がりです。職人技ってスマートできれいですよね。「沖縄の特産ってなんですか？」と聞かれ、「塩です」って答えました。だってそのお寿司屋さん、寿司を塩で食べる店なんです。帰沖して9種類の島マースを送ってあげました。

さて、今回の医師会報も盛りだくさんの内容です。

テーマが二つあったと思います。ひとつは「沖縄のこころ」もうひとつは「出口の見えない医療問題」です。

宮城会長の「慰霊の日によせて」を拝読しました。無知な私は、沖縄陸軍病院の塔の存在を知りませんでした。子どもの頃、父親に連れて行かれた慰霊の日の参拝のことを思い出しました。照りつける太陽の暑さに1分間の黙祷も我慢できずにうっすらと目を開くと、親父の頬を伝わる涙が目に入ってきました。強かった親父の何かしら見てはいけないものを見てしまった気がしました。戦争は多くの人、たくさんの財産を奪いましたが、敗戦から立ち直ってきた沖縄の強さが、我々のDNAに植え込まれています。沖縄のスピリットを忘れてはいけません。

大城盛夫先生、大西弘道先生、叙勲おめでとうございます。結核医療と地域医療にご尽力をつくされた両先生に感服です。沖縄の医療をよくしたいというお二人の闘魂と気迫は、素晴らしい沖縄の魂です。

福島県立病院の産婦人科医師逮捕の事件は、医療人にとって大きなショックでした。うわべだけのお手軽取材記事を読んだ（あるいは聞いた）国民は、「また医者が悪いことをした」としか考えません。マスコミはこの問題の本質に真剣に触れることはありません。県民との懇談会の場をもっと多く持ち、情報をアウトプットする必要があります。その一方で、国民が医療に対して不信、不満、不安を持っているのも事実です。1級建築士に新たに試験を受けてもらって新1級建築士を認定する案や、教員の免許更新制度の話も出てきています。国民の不信をかった結果です。医師免許の更新制度も耳にしますが、我々は国民の信頼を勝ち得るべきでしょう。大浦先生の「貧すれど鈍せず」では、QOMを謳っています。大賛成です。医療問題は、第三者の論弁や一方通行の極論だけでは出口が見えません。医療人のみならず恩恵を受ける国民も一緒になって論議する必要があります。

緑陰随筆にはたくさんの寄稿ありがとうございます。全て興味深くまた楽しく読ませていただきました。バイク、旅行、唄、釣りなど多趣味な話題満載です。上手くストレスを発散する、いや趣味のために働いているのかと思わせる本格的な道楽です。「メディア漬けと子どもの危機」は私の琴線に触れました。特に小児科の先生方は実感されるでしょうが、人任せにする親がたくさんいます。そしてなんでも人のせいです。子どもが病気になったのも、上手く育たなかったのも他人のせいです。子どもは悪くありません、罪はないのです。テレビを見せない、大切です。連日連夜悲しいニュースばかり報道されます。新聞しかりです。特にテレビは嫌な情報をrefuse できません。わが家では新聞の購読を止めました（といったらバカにされますが）。今度はテレビを捨てようかと考えています。

広報委員　久高　学